

みかい

安住院便り
(第8号)

平成14年1月1日発行

〒703-8236

岡山市国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

ご本尊御開帳

昨年十一月三日、御本尊千手千眼観世音菩薩の御開帳法会が、盛大に厳修されました。観音様の変化身に合わせて三十三年に一度が一般的ですが、当院では昭和十一年以来六十六年ぶりということ、待ち望まれていた方も多かつたのではないかと思われまします。

当日は、晴れの確立が高い文化の日でしたが、皆様の様々な願いを聞き入れて頂けた証でしょう、御本尊の慈悲の雨あるいは、甘露の法雨とでも申しましようか、雨の御開帳となりました。

当院の観音様は、十一面四十二臂の千手観音ですが、御自身の手を除く四十手が二十五の様々な世界に分けて活躍するので、それを乗じて千手となり、それぞれの手に各々眼をお持ちになり、あらゆる人々の願いを叶え、苦しみから救ってやまない大慈悲心を表現しています。

この素晴らしい観音さまを御本尊として栄える安住院が千二百年余の歴史が有ることは、当然の事ではないでしょうか。これからも、益々皆様のお力になって頂けるよう、御祈念したいものです。これから、安住院護持のため、皆さまの御協力を宜しくお願い申し上げます。

また、当日の法会には、咒立大曼荼羅供といつて、真言宗では特別な場合に行われ、とても厳儀なものなのです。御本尊の両脇に胎藏界と金剛界の二つの曼荼羅を懸け、本堂内に全ての仏様たちをお招きして、参詣の皆様と一緒に素晴らしい仏の浄土を造りあげるのです。曼荼羅については以前のお便りで紹介しましたが、その仏様を供養



するために、一緒に御真言をお唱えしたのです。静かに手を合わせ、口で真言を唱え、心で仏様を思うのです。これこそ、真言宗の最も基本となる祈りなのです。その前に、いろいろな供物を供えたりして道場を荘厳するのが、法会の元々の意義なのです。その為にお経に節を付けたり、鉢を鳴らしたりして、お花を撒いたりして、仏様をお迎えするのです。

このように法会は決してお坊さんだけのものではありません。皆さんと一緒に仏の世界を創り上げるのです。テレビなどでは決して味わうことの出来ない荘厳さの中に自分自身を置くことが出来るのです。

安住院ホームページ <http://www.anjuin.com/>

初観音法要のご案内

来る一月十七日（木曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈禱並びに護摩供を厳修致します。

念頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。また、特別祈禱も申し受けますので、前日までにご連絡下さい。

御本尊お軸完成

今回の御開帳を記念して、千手観音菩薩の新しいお軸を新しく描いて頂きました。仏画師は、中村涼應師と云って住職と同年代の方ですが、とても有名なご夫婦で、京都の種智院大学にて仏画を教えておられます。お忙しい中、無理をお願いし描いて頂きました。開帳の記念品として散華をお配りしましたが、その中の観音様も、そのお軸からとっています。

素晴らしく、貴重な物で、これからの安住院の什物として、末永く祀られると思います。出来ませれば、御施主となっても構わない方がおられます。是非ご一報下されば幸いです。



安住院で「青葉祭り」

毎年恒例の岡山市内真言宗降誕会による弘法大師御誕生会（青葉祭り）が六月十五日に開催されます。今年の会所は安住院になります。福引きを始め様々な余興もあります。詳細はまたご連絡致しますが、是非ご参詣下さい。

四国八十八ヶ所霊場巡り

昨年の十月十一日、檀信徒の皆様と、四国八十八ヶ所霊場巡りの第八回目、いよいよ最後のお参りになりました。讃岐の残り、八十五番の屋島寺から第八十八番大窪寺までの五ヶ寺でしたので、のんびりとした霊場巡りになりました。ケーブル有り、大きな伽藍のお寺が多く、晴天の中、清々しさも味わうことが出来ました。

足かけ四年間、長いようで短いようで・・・やはり、感慨深いものがあります。皆さんも同じような想いがあるのではないのでしょうか。

そして、お大師さんの偉大さを改めて実感出来た気がしました。歩き遍路をすれば更に増すのですが、お大師さんの足跡を一緒にお参り出来るという要するに「同行二人」の世界なのです。もう一度考えて頂ければ、毎日の生活にも変化が生まれるのではないのでしょうか。



次はいよいよ高野山です。四月十七日（水）・十八日（木）ですので、皆様宜しくお願い致します。